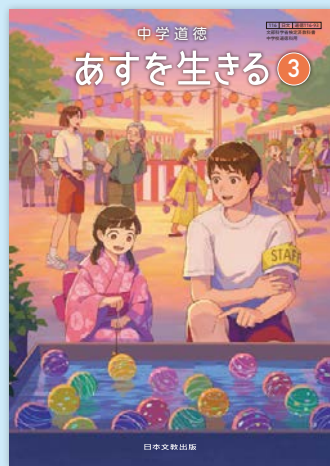


令和7年度版『中学道徳 あすを生きる』
で実現する
令和の日本型学校教育
5つのポイント

1. 個別最適な学び、協働的な学び
2. ウェルビーイング
3. 多様性
4. いじめ問題への対応
5. Society 5.0時代



日文のWebサイト
新版教科書情報



日文 🔍

※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

個別最適な学び、協働的な学び

令和3年1月に取りまとめられた中央教育審議会の答申では、「**全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び**」の実現こそが、目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿だと位置づけています。

個別最適な学び

現在の学校教育においては、GIGA スクール構想で整備された**ICT環境の活用**や**少人数によるきめ細かな指導体制**などによって、「**個に応じた指導**」を一層充実させることが求められます。「**個別最適な学び**」とは、この「**個に応じた指導**」を学習者視点で整理した概念であり、これらはさらに「**指導の個別化**」と「**学習の個性化**」に整理することができます。

指導の個別化

支援の必要な子どもにより重点的な指導を行ったり、子ども一人ひとりの特性や学習進度・到達度などに応じて、指導方法や教材、学習時間などの柔軟な提供・設定を行ったりすること。

学習の個性化

子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性などに対応し、一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身が学習が最適となるよう調整すること。

協働的な学び

「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「**協働的な学び**」の充実を図ることも重要です。**探究的な学習**や**体験活動**などを通じ、集団の中で個が埋没しないように一人ひとりのよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出すことができます。



一体的な充実

【学習指導要領 前文より】

これからの学校には、(略)一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善へ

参考：「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」文部科学省による

『中学道徳 あすを生きる』で実現する「個別最適な学び」「協働的な学び」

1 道徳ノート

教科書本冊には『道徳ノート』が付属しているので、家計の負担なく全員が同じノートを使用でき、**誰一人取り残されない学びの保障**につながります。



▲3年 道徳ノート p.26 「25 臓器提供」

自分の意見や友達の意見、話し合いによる考えの変化など、生徒たちが**道徳科の授業で協働的に学んだ内容**を記録できます。それは「**個別最適な学び**」が実現された一人ひとりの成長の記録となり、いつでも見返すことができます。

先生や保護者が道徳ノートを紹介して生徒の学習状況を読み取り、**自由欄や学期末の振り返りページ**などにコメントを残すことで、それぞれの成長に寄り添う「**個に応じた指導**」を行うことも可能です。



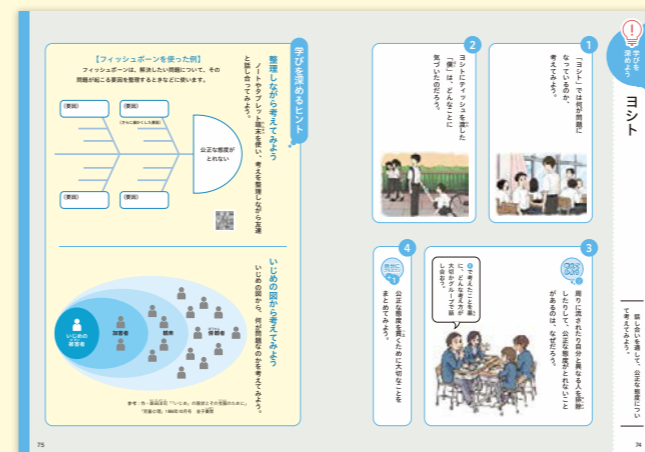
全教材、教科書QRコンテンツとして**ワークシート(デジタルノート)**を用意しているので、生徒の特性に合わせて、**紙かデジタルかを柔軟に選択**できます。

2 教科書QRコンテンツ

それぞれの興味・関心をより広げる資料や外部リンク、考えを可視化し協働的な話し合いを活性化させる**心情メーター**や**シンキングツール**、**読字に困難さのある生徒や不登校の生徒にも対応**できる朗読音声など、**個別最適な学びと協働的な学びを実現する多彩なコンテンツ**が全教材・全コラムに付属しています。

3 学びを深めよう

問題解決的な学習や**体験的な学習**などの活動を通じて「**協働的な学び**」が実現できる授業展開を示しています。



▲2年 p.74 「14 ヨシト」 学びを深めよう



4 コラム「視野を広げて」

個々の興味・関心をさらに広げて深め、「**学習の個性化**」に対応できる**コラム**を多数掲載しています。



▲1年 p.110 「地球の未来のために—SDGs—」

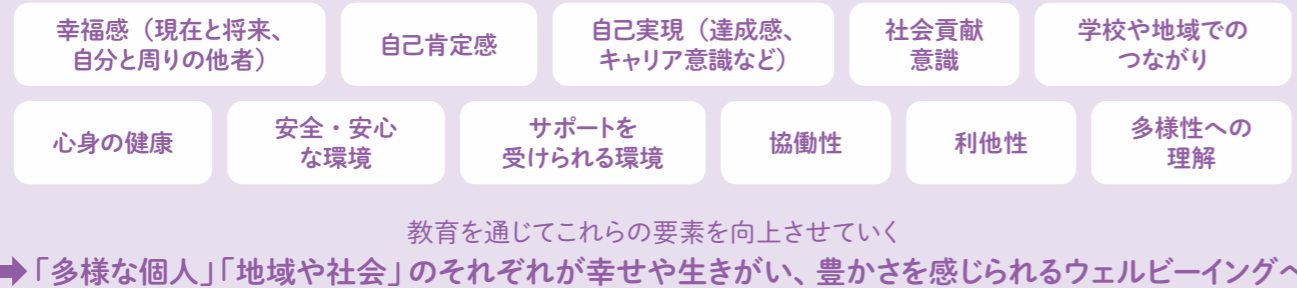
2.

ウェルビーイング

ウェルビーイングとは、**身体的・精神的・社会的に良い状態にあること**をいい、短期的な幸福のみならず、**生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福**を含む概念です。ウェルビーイングの捉え方や求め方は、国や地域の文化的・社会的背景、また一人ひとりの置かれた状況によってさまざまですが、**経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず精神的な豊かさや健康まで含めて幸福や生きがいを捉える**考え方が重視されてきています。

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

令和5年に閣議決定された第4期「教育振興基本計画」では、コンセプトの一つとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。これは、**自尊感情や自己効力感など個人の獲得的要素**（欧米で重視されてきた価値観）と、**人とのつながりや関係性などの協調的要素**（日本で重視されてきた価値観）の両方を大切に、**「調和と協調」に基づく日本発のウェルビーイング**を目指そうという考え方です。



『中学道徳 あすを生きる』が意識した「ウェルビーイング」「多様性」

1 コンセプト「自信をもつこと」「多様性」を基にした教材選定

『中学道徳 あすを生きる』は、**「自信をもつこと」「多様性」**をコンセプトとして編集されました。新たな重点内容項目**「向上心、個性の伸長」「相互理解、寛容」**については教材数を増やし、多様な生き方や考え方を取り上げた内容から、子どもたちが**「自己肯定感」「自己有用感」「自分らしさ」「その人らしさ」**を大切に、**ウェルビーイングを高められる**よう工夫しています。

向上心、個性の伸長



▲3年 p.90 「16 カラフルな世界で」

井手上漢さん

相互理解、寛容



▲3年 p.60 「10 親友と語り合った『孤独の解消』」

吉藤オリィさん

3.

多様性

一人ひとりのウェルビーイング実現のためには、**相互に多様性を認め、高め合い、他者のウェルビーイングを思いやれる**ような教育環境を整備することで、**誰一人取り残すことなくすべての子どもたちの可能性を引き出す学び**を促進することが重要です。

共生社会の実現に向けた教育

「みんなで同じことを、同じように」を要求する同調圧力への偏りからの脱却

異なる立場・考え・価値観の人々同士が、互いの組織や集団の境界を越えて混ざり合い、学び合う



参考：「教育振興基本計画」（令和5年6月16日閣議決定）
「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」文部科学省による

2 ユニット「よりよい社会を考える」

子どもたちが**持続可能な社会のつくり手**として、多様性に富むよりよい社会を担っていけるように、ユニット「よりよい社会を考える」を構成しました。**SDGs**も踏まえ、**「自立と共生」「環境と未来」**という2つのテーマに関わる教材・コラムをユニット化し、**よりよい社会について集中的かつ多面的・多角的に考えられる**よう工夫しています。



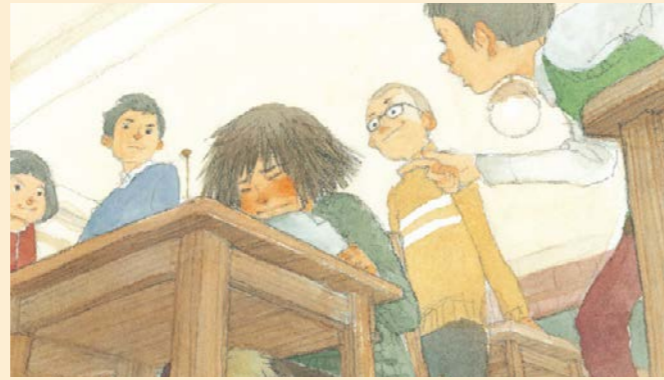
▲3年 p.2 「もくじ」

いじめ問題への対応

いじめは、いじめられた児童生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれのある行為です。

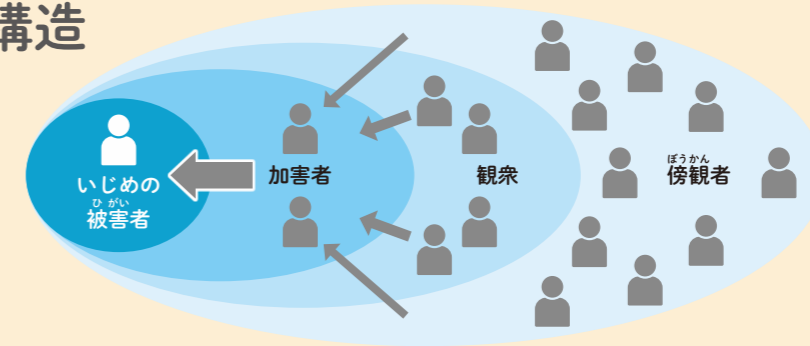
いじめの定義

「いじめ」とは、児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍しているなど当該児童生徒と一定の人的関係にあるほかの児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいいます。



参考：「いじめ防止対策推進法」

いじめの構造



いじめの被害者の思い	加害者の思い	観衆の思い	傍観者の思い
<ul style="list-style-type: none"> ・つらい、助けて。 ・仕返しが怖い。 ・自分のプライドを守りたい。 ・仲間外れにされたくない。 ・ので我慢。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊んでいるだけ。 ・むかつく。 ・相手が悪い。 ・お金や物が欲しい。 ・自分はいじめられたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめられる理由がある。 ・嫌ならやり返せばいい。 ・自分はいじめられたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分には関係ない。 ・止める勇気がない。 ・いじめを見るのもつらい。 ・自分はいじめられたくない。

▲1年 p.34 「いじめて何？」より

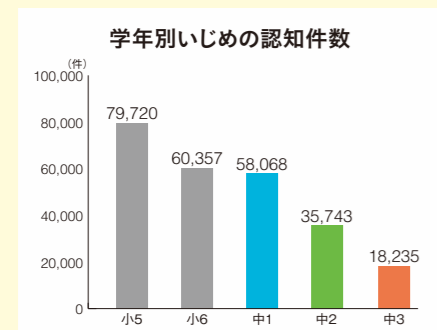
参考：作・森田洋司『「いじめ」の現状とその克服のために』『児童心理』1986年10月号 金子書房、『子供の心が開くとき 子供と心が通うとき(改訂版)』東京都教育相談センター、『人権教育プログラム(学校教育編)』東京都教育委員会による

『中学道徳 あすを生きる』の「いじめ問題への対応」

ユニット「いじめと向き合う」

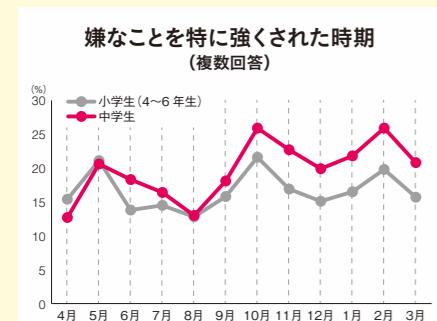
生徒たちがいじめを自分事として捉え、いじめについて主体的に考えられるよう、厳選した教材・コラムを組み合わせ、ユニット化しています。

1 いじめが起きやすい時期に年間複数配置

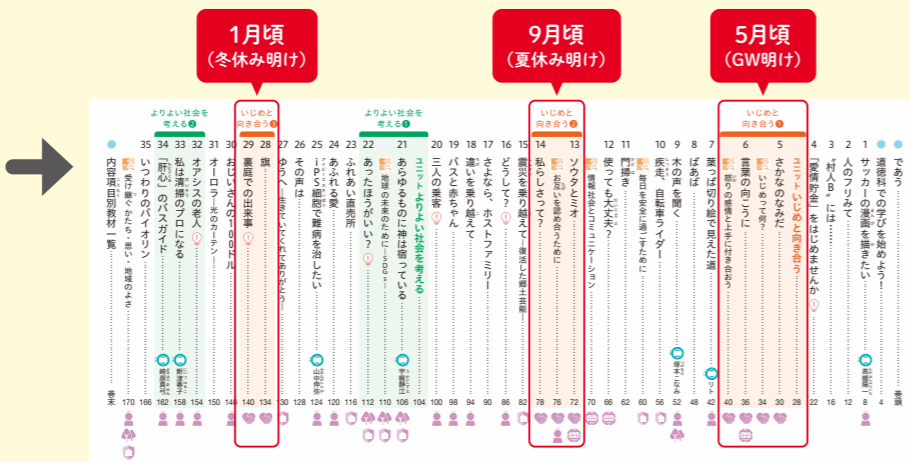


「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」文部科学省による

いじめの認知件数は中学校3年間のうち1年生がその半分以上を占めること、長期休み明けにいじめ行為が強くなるのが分かっています。これらのデータを踏まえ、ユニット「いじめと向き合う」は1年生に3か所、2・3年生にも2か所と、年間複数配置を徹底しました。また、長期休み明けの時期をねらって配置することで、いじめの未然防止につなげられるようにしました。



「令和元年度 いじめについてのアンケート調査報告書」大津市による



▲1年 p.2 「もくじ」

2 教材・コラムの系統性、発展性

生徒の発達の段階に合った学びを積み重ねられるように、各学年で考えたい内容を踏まえて教材・コラムを選定しました。



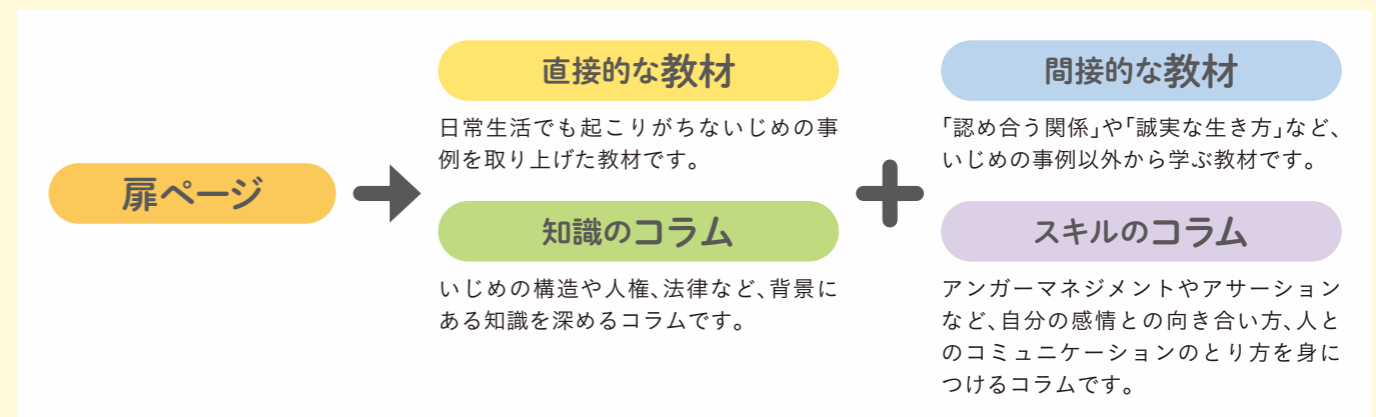
▲1年 p.78 「14 私らしさって?」

▲2年 p.40 「7 リスペクト アザース」

▲3年 p.34 「6 卒業文集最後の二行」

3 多面的・多角的にアプローチ

ユニットは、いじめの事例を直接的に扱った教材と、違う視点から間接的に考える教材の両方で構成されています。加えて、コラムは知識を深めるものとスキルを身につけるものの二段構えで構成し、多面的・多角的に考えられるようにしました。



5.

Society 5.0時代

現代社会は、AI（人工知能）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクスなどの先端技術が高度化した「Society 5.0 時代」へと向かっています。社会の在り方が劇的に変わっていく中で、未来を担う生徒たちには、**変化を前向きに受け止め、社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにする資質・能力**が求められます。

「Society 5.0」とは

Society 5.0は、我が国が目指すべき未来社会として提唱されたコンセプトです。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、**「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」**と定義されます。

今や、ほとんどの児童生徒がデジタル機器を日常的に使用していることに加えて、2019年に打ち出されたGIGAスクール構想は新型コロナウイルス感染拡大の影響により前倒しで実現され、学校現場のICT環境も整備されました。人間中心のSociety 5.0時代においては、人としての強みを生かしていくために一人ひとりが当事者意識をもち、他者と協働しながら新たな価値を創造することが求められるとともに、**情報モラル教育**や**デジタル・シティズンシップ教育**の必要性もさらに高まっています。



参考：『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」中央教育審議会による「令和3年版 科学技術・イノベーション白書 Society 5.0の実現に向けて」文部科学省による

『中学道徳 あすを生きる』が描く「Society 5.0時代」の学びのかたち

1 情報モラル、デジタル・シティズンシップに関わる教材・コラム

情報社会において**自他の権利を尊重し行動に責任をもつこと**、**AIを正しく活用し社会課題の解決に役立つこと**など、情報モラルやデジタル・シティズンシップに関わる教材・コラムを**全学年に掲載**し、Society 5.0時代に必要な資質・能力を育成できるようにしました。

▶ 3年 p.66 AIと情報社会



2 OCRサービス

Society 5.0時代に対応し、**先生の働き方改革**実現を目指して、**道徳ノートに手書きされた文字をデジタルデータ化するOCRサービス**を開発しました。

※教師用指導書セット付属のサービスです。



生徒が手書きした道徳ノート紙面の画像からテキストデータ化！



日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690